

- 1面=〇郷土のしおり
- 2面=〇国体はすぐ目の前
 - 〇市議会正副議長常任委員など改選
 - 〇競技の見方
- 3面=〇広報豆知識
 - 〇新ちょう発足
 - 〇もりあがる親切運動
 - 〇市民の窓へ投稿を
 - 〇前納に6分の報奨金
 - 〇火葬場7月に新装
- 4面=〇流行する小児マヒ
 - 〇国民年金
 - 〇厳しくなる防火管理

広報 おおだて

No. 67

(毎月 1回発行)

発行 昭和36年7月5日発行
 発行所 秋田県大館市役所
 編集兼 竹内福哉
 発行人
 印刷所 北鹿新聞社

- 1日…国民安全の日
- 1～7日…全国安全週間
- 1～31日…〇道路を守る月
 - 間〇社会を明るくする運動
- 20日まで…夏の健康運動
- 10～17日…国土建設週間
- 21日…自然公園の日
- 1～31日…〇中小企業退職金共済制度加入強調月
 - 間〇所得税の予定納税
- 1～8月31日…登山、海浜の事故防止運動

今月の広報ごよみ

『目に青葉山ほととぎす初鯉』とは山口素堂の名句である。初夏は目にも、耳にも、口にも、素晴らしい趣の深い季節といえる。

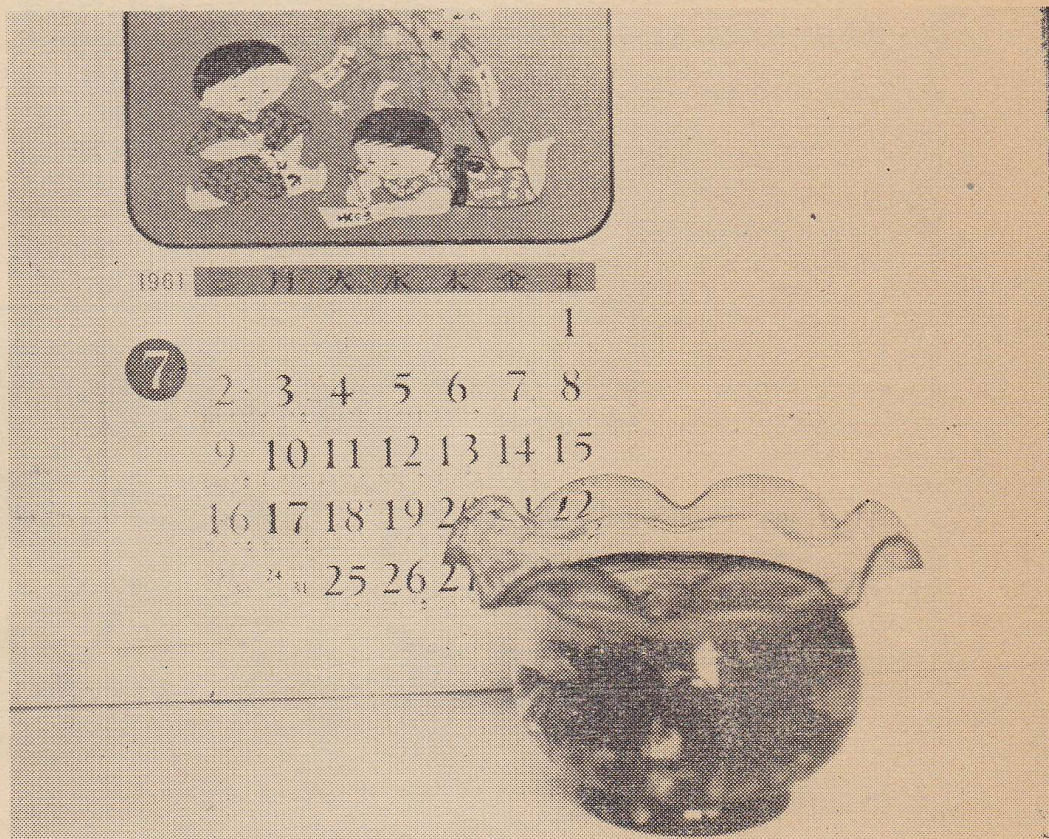
各地からは海、山びらきの便りがきかれ、こよみの上では7日が七夕。涼を呼ぶ工夫も必要になってくる。

新暦では15日が「うらぼん」。20日は土用のいりで、21日頃から市内小中学校では夏休みにはいります。

23日が大暑で、本格的な夏をむかえる。蟬が鳴き、螢とび、季節の果物もでまわるなど、夏は趣き豊かだが、一面、健康をそこねやすい。

つゆ明けの衣類の手入れも必要だし、夏まけをふせぐ栄養の気づかいも必要。蚊やハエもいよいよ活動が活潑になるし、住いの清掃も欠かせない。

子供たちの水の事故、夏の防犯にも細かい注意が必要です。



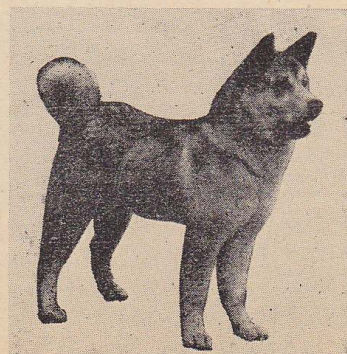
郷土のしおり

秋田犬

大館市の天然記念物 … ①

秋田犬は、武士や豪農に番犬、闘犬として飼育された。大館城主(佐竹侯)は代々犬を好んだ。ひとつには闘犬によって剣の極意を学び、武士たちの士気を高めようとするに役だて、ひとつには文化の発達していない当時、闘犬が唯一の楽しみであったからだ。明治、大正時代は闘犬のもっとも盛んな時代で正月、盆休み、農閑期には常設闘犬場で、興行的に闘犬大会が催されたが、闘犬熱も度が過ぎたためか、しばしば闘犬禁止令がだされた。秋田犬が偉大な体軀になったひとつの原因に闘犬がある。しかし、強

い犬、大きい犬、太い犬という考えから純粋種保持の観念がなく、種族の保存が危ぶまれた。大正時代には土佐犬の血を入れた新秋田種という闘犬まででたほどである。昭和時代に入って、国粹主義が興隆するとともに、海外にまで有名になった渋谷駅の「忠犬ハチ公物語」や、秋



田犬の忠犬美談にめぐみ、秋田犬は国犬として保存すべきであるという声が高まり、有志によって純粋種の保存と繁殖がなされて昭和6年7月文部省天然

記念物に指定された。秋田犬の生誕地として大館駅前に建立された「ハチ公」の銅像は、戦時中撤去されたが、戦後16年をむかえた今日、再建の動きが活発になっている。戦争末期の食糧難によって秋田犬の保存に大打撃を蒙り、純粋種はわずか数十頭残されたに過ぎないといわれているが、戦後年ごとに、国内はもとより海外から好まれるにおよんで、急速に繁殖し、大館市に本部をおき、全国に支部組織をもつ「社団法人秋田犬保存会」の登録犬だけでも3万数千頭を数える普及浸透ぶりである。本部展は毎年2回、春は5月3日、秋は11月3日に大館市で催される。秋田犬には標準規格というか審査の基準といったものがあるが、ひと口には、体軀が巨大で、被毛が厚く、耳は丸味を帯びて左右に開き、吻は尖り、尾は太く背上に巻いているのが特徴である。